

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会（第1回）会議要録

- 1 日 時 令和8年2月17日（火）18時30分から20時20分まで
- 2 場 所 武蔵野市民社会福祉協議会 会議室
- 3 出席委員 和、熊田、見城、酒井、西田、福本、町田（敬称略）
- 4 欠席委員 佐藤、福山（敬称略）
- 5 事務局 田村（事務局長）、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事

- 1 委嘱状の交付
- 2 委員紹介
- 3 事務局職員紹介
- 4 議 事

(1) 正副委員長の選出 資料2・3

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会設置要綱第5条に基づき、委員長に熊田委員が選出された。また、副委員長に酒井委員が指名された。

(2) 委員会傍聴について 資料4

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会傍聴基準に基づき、委員会の傍聴について諮り、承認された。また、会議要録について、武蔵野市民社会福祉協議会ホームページへの公開が承認された。

【委員】 傍聴に関する周知の状況について教えてもらえますか。

【事務局】 広報に関しては、市民社協のホームページやフェイスブックなどのSNSで周知しております。

(3) 議事録の形式及び取扱いについて

事務局より今回および次回以降の策定委員会の議事要録について、議事要録作成の都合上、校正依頼を各委員のメールへ送付する旨を伝えた。

※委員からの意見等はなかった。

(4) 推進委員会の概要・スケジュールについて 資料5

資料5 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会の概要に基づき、事務局より説明を行った。

【副委員長】 事務局より話があったとおり、第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下

「第5次活動計画」)は、民間の計画なので、市民同士で振り返りをして、次につないでいくという作業をこの委員会で行うということです。

【委員長】 行政計画と活動計画の振り返り方法は同じものではないので、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画(以下「第4次活動計画」)の振り返り報告書に記載の方法が良いかどうかも含めて確認できれば良いと思います。

【委員】 ホームページに公開されている計画書(PDF形式)のダウンロード数や、動画の再生数などはデータで確認できるので一つの指標として良いと思います。

【事務局】 動画の再生数は、約90件となっています。ダウンロード数については確認し、改めてお伝えします。

【委員】 冊子のPDF形式や音声データもあるとのことでしたが、障がいのある方の中にはテキストデータで情報を得られる方もいます。txtの拡張子のテキストデータが情報保証という点であっても良いかと思いました。

【委員長】 障がいのある方によって、サポートが必要なところが変わってくると思います。すべての対応は厳しいかもしれませんが、ご配慮いただきたいと思いました。

【副委員長】 第4次活動計画がコロナ渦で活動ができなかったことと、もう一方で、SNSやZoomなどのデジタルツールを利用した活動継続を模索しました。第5次活動計画では、SNSの活用にもう一步踏み込んでみようということで、策定委員会で議論をしました。全部ができるかどうかは別として、新しいことに挑戦することが重要だと思っています。活動についてどうやって発信していくのかを、推進委員会で協議できれば良いと思います。

【委員長】 推進ということを考えると、単純にそれが進行しているかどうかだけではなく、第5次活動計画をどうやって伝えていくかもこの6年間通じて考えていきたいです。

推進委員の皆様は、策定委員でもありますので、所属団体のメンバーに第5次活動計画についての内容などもふまえてお伝えしているかと思っています。そこで計画書を渡した時に、どういう反応だったかをお話いただければと思います。

【委員】 正直申し上げてしまうと集約できてなかったところはあります。自身も活動がここ最近うまくできなかったです。配布されているという情報は、団体内のSNSで確認しています。

【委員】 日頃の活動は変わらず、身近なサークルや学校のつながりの中での活動を引

き続きやっています。第5次活動計画をどの程度、周知できているかというところ、大きな声でできていると言えない状況です。コミセンのチラシラックを見ると計画書が置かれているのは見ているので、手に取ってもらえるにはどうしたら良いかと皆さんの話を聞いて思いました。後は、市民社協のホームページだと第5次活動計画の紹介ページが確認できましたが、その他SNSなどだとわかりづらかったです。周知に関しては、SNSにおいてはタグ付けしてわかりやすくするなど強化月間を設けても良いかと思いました。

【委員長】 第4次活動計画では、文字が多すぎるや内容が難しいという意見があり、第5次活動計画ではその反省点をふまえて分かりやすくなっていると思いますが、計画を見た人の反応も改めて検証していければ良いと話を伺いながら思いました。

【委員】 私もコミセンに計画書が置いてあったのは、確認しています。5冊置いてあったのが、10日間程度でなくなっていました。すべて男性が持っていったと思います。その後、活動につながっているかはわかりませんが、男性に好まれるデザインだったのかもしれない。

【委員長】 非常に興味深いです。計画書は、やはり高齢の男性層には好まれるのですかね。読み物として読んでもらっているのであればそれで良いと思いますが、一方で、手に取ってもらえていない層にどのように周知するかという問題だと思えますので、推進委員会で検討していく要素だと思います。

【副委員長】 表紙のデザインは洗練された感じで、個人的に良いと思います。手に取ってもらえることはとても重要だと思います。

ボランティアセンターで実施しているお仕事サロンの参加者は、作業をしている時間の心地良さを知っています。親子で物を作る活動を行っていますが、ボランティアの方と子育て世代の参加者の間で会話が生まれていて、少し身近に感じてもらえるようになったかなという印象はあります。

他にもSNSで繋がっていくことが今後はさらに必要だと思うので、SNSの使い方の講座やVR体験会などを市民社協や地域社協で実施できると良いと思いました。

【委員】 私自身がIT企業に勤めていて、グループ会社の事業で、高齢者向けVR歩行訓練をやっています。画面上の風景が中国の万里の長城やイタリアの街並みなどになっており、海外旅行の気分を味わいながら歩けるという内容で高齢者

施設にご協力いただいています。参加者にも大変喜んでもらっています。個人的に考えているのが、吉祥寺などの街並みは昔と大きく変わっていると思いますので、当時の資料があれば、街並みをVR上に再現することはある程度できると思います。例えば、高齢の方に50年前の吉祥寺を歩くVR体験会ができたら面白いのではないかとということで、そういった伝え方、繋ぎ方もあって良いかと思います。

【委員】 日赤奉仕団として、ボッチャを通して地域の人がつながりを深めていけるように活動を続けています。ボッチャは東京都支部からグッズもいただいたので、それを使って各分団で体験会を実施しています。他にも身体を動かすことが苦手な方の中では、麻雀が流行っていると聞いています。日赤奉仕団のない自治体もあるそうですので、防災訓練などのイベント以外のつながり作りが大切だと最近特に感じています。ボッチャや麻雀の市民大会を開催すれば、たくさんの人の交流が生まれると思います。

【委員長】 この計画を進めていく中で、いろいろと仕掛けていけると良いかなと思います。計画を踏まえて、周知いただいて、実際に実践していただいているということが見えてきたかなと思います。一方では、まだ十分に伝わってないこともあるかと思うので、そこをどうやって伝えていくのかということは、引き続き検討していければと思います。

(5) 計画の振り返りについて(評価対象、評価方法など) 資料6

資料6 計画の振り返りについてに基づき、事務局より説明を行った。

【委員長】 説明のとおり、第4次活動計画の作りは、ステップ方式だったが、ステップに従って段階的にうまく進んでいくものでもなく、どの程度の期間で計画を検討するのかという点も明確ではなかったりと課題が山積だったので、この第4次活動計画の振り返り方法を使うことはできないと思います。それでも評価をしたという点では、すべてが悪かったということではないと思いますので、時間のある時に一度、第4次活動計画振り返り報告書をご一読いただければと思います。

【委員】 委員の話聞いて、第5次活動計画ができたからといって普段の活動が盛り上がり、人とのつながりができているわけではないと思いました。要は、計画を立てたことによってその活動が始まったかどうかはわからないということです。資料2で推進委員としての役割はなにかと改めて確認すると、第1条

(設置)に進捗状況を住民及び関係者によって確認することと書いてあります。また、第2条(所管事項)の「(3)前2号に掲げるもののほか、地域福祉活動を推進するために武蔵野市民社会福祉協議会会長が必要と認める事項。」が重要だと考えていて、この第5次活動計画がなかなか周知されていない現状をふまえて、例えば実際に行っている地域活動を確認及び把握をしながら、計画の説明を行っていくような取組みができれば良いと思いました。

【委員長】 指摘の中で大事なのが、連動はするけれども、評価と推進は基本的には異なるもので、例えば、先ほど話のあったポッチャをすることはまさに推進の部分です。一方で、第5次活動計画の「基本目標2つなごりたい時に～」でみると、そのつながりがどうだったかということの評価することがうまく連動しないと、ポッチャをすることの評価が十分ではないようになってしまいます。そうなった時に推進と評価を、どう連動させるかが大事なのかなと思います。いずれにしても来年度中には、評価指標を固めないといけませんので、皆さまの意見をふまえて、2回目の推進委員会までに事務局と正副委員長及び和委員で検討して、たたき台を準備できればと思います。

【副委員長】 市民活動は、市民が自主的に行っている活動なので、それを評価すること自体が私の中で違和感があります。ただ、計画であるので評価をしなくていけないという矛盾があります。例えば、サロン活動の拠点が4カ所から5カ所に増えたならば納得はできるけれども、ソフト面に関しては、市民が頑張っている活動であるのに評価次第では、モチベーションを下げってしまう可能性があるのではないかと考えてしまいます。

【委員】 活動計画は行政計画とは違います。活動計画を評価すること自体があまりされていません。数値での評価も同様です。どうにかして振り返りはしますが、話のあったように市民が頑張っている活動を評価するとは如何なものかという意見もあるので、評価ではなく振り返りという方向で良いのではと考えます。

【委員】 武蔵野コミュニティ条例に基づいて公費を使用して、コミュニティセンターを運営しており、5年に1回、コミュニティ評価委員会を開催しています。昨年は、自己点検評価やアンケート集計などをして評価委員会報告書として市長に答申を出してします。その際、運営する時には評価という言葉は一切使わずに書こうという点にこだわりました。要するに、気づきと励ましで良いのではということです。民間計画なので、事務局と推進委員で相談して、表現を含

めて考えられればと思います。

【委員】 行政にこの計画の評価をどう伝えるべきか、数値的なものを求められているのかその点はどうか。

【事務局】 社協が取りまとめて市民の皆さまと第5次活動計画を策定した以上、社協としてどういう取り組みをしていくのかという点に関しては求められていると思います。それに市民社協の取り組むべきアクションが該当すると思います。それ以外には「すべての市民」「活動に参加している人」「公共・専門機関」に関して、市民社協はどのような働きかけや達成ができたのかということも含まれます。その中に数値で表現できるものがあれば、説得力はあると思います。

【委員長】 活動に参加している人からすると、なぜ評価されるのかと意見がありますが、全ての市民が関わっているわけではないので、そうでない人からすると、これは一体何をやっているものかということをお問われてしまいます。やはり、評価することを放棄できないことは、計画の宿命なのかなと思います。評価と推進は特性の違いはあれど繋がっているところもあるので、そういうことを意識しながら、次回までに叩き台を作りたいと思います。ただ、これで6年間やっていくわけではなく、途中で意見をふまえて修正をしながら変えていくという往復作業になるということをお共通認識できれば本日は良いかと思います。

【委員】 第5次活動計画を作る時に、コロナ禍の経過を踏まえていきながら、成果主義ではなくて、経過を評価しようということをお共通認識してから始まったことを覚えています。これは活動の評価ではなくて、活動計画の評価なのです。計画を立てた以上、その進捗状況の管理は、我々でなんとかしなきゃいけないということです。それをどういう方法で実施していくかってところだと思います。地域の実際の活動が進んでいる中で、計画書のどこに紐付け、進捗管理できるかが重要だと考えます。

5 事務局からの連絡事項等

事務局より推進委員会会議要録の確認方法について再度、説明を行った。

6 次回日程(候補日)

事務局より今後のスケジュールについて説明を行った。

【委員長】 他になければ、これで第1回の推進委員会を終わります。